資料3

次期大阪府文化振興計画への意見及び対応検討案

【1】計画全般

意　　見	対応検討案
○次期計画での取り組みについては、あるべき将来像に向けてどのように取り組んでいくかを議論して、アーツカウンシルの仕組みを構築すべき。 ○現計画は、施策・事業レベルまでブレイクダウンしたものを並べているが、次期計画では具体的に事業等を記載するのか。 ○文化振興策については、教育や観光などにも踏み込んで議論が必要ではないか。	・現計画においても、計画では基本的な考え方や方向を示し、具体的な施策は参考資料として添付しており、次期計画も同様にする ・将来像、戦略等は今後議論を進める
○大都市制度における文化施策の広域行政の役割の整理が必要。 ○広域自治体としての計画であるから、府市統合の視点とともに、広域行政の役割の視点も強調すべき。	・次期計画において、「広域自治体」としての役割、視点をもとに戦略等を記載
○府市共通のビジョンのもとで次期計画を策定するにあたって、府の計画の９つの戦略と、大阪市芸術文化振興プランの６つの施策の統合・整合が必要と思われる。	・大阪市文化振興会議と連携して議論を進める

【2】基本的考え方・理念・ビジョン等

意　　見	対応検討案
○「文化の主役は府民・市民」は、より広い概念で示すべきではないか。 ○「文化の主役は府民・市民、行政は自主的な活動をサポート」について、「文化在民」「大阪文化維新」などのキーワードで表現してはどうか。自主的な活動のサポートについては、府民市民だけでなく、アーティストなどへのサポートもわかるような表現にすべき。	・中間まとめにおいて「府民、市民、アーティストなど」と記載
○「主体的な活動のサポートに徹する」とした場合、都市の創造的発展に不可欠な要素が排除されないか検討が必要。 ○「行政は自主的な活動をサポート」は、事業助成や補助金を廃止していくことかを明確にし、具体的な施策を示す必要がある。	・中間まとめにおいて「徹する」を削除 ・サポートは助成等も含まれる。計画では基本的な方向を記載
○現行計画の4つの理念はぶれることなく継承・発展させることとすべき。	・次期計画において、基本的に理念を継承（表現は文化振興会議の議論を踏まえ検討）
○現行の「文化自由都市、大阪」は、このままでいいか検討が必要。 ○文化振興は、一本の大樹があるのではなく、さまざまな木があり、いろんな実をつける木、なかには枯れる木もあるというイメージではないか。 ○大阪で育まれたいろいろな文化の味を一堂に発信するという意味合いで、例えば「グレートリゾット」としてはどうか。	・文化振興条例の趣旨を踏まえつつ、将来像の表現を検討
○「多様性と寛容性が都市の豊かさ、文化の豊かさであり、創造の源である」といった理念を設定すべき。 ○社会の活性化の基礎づくりこそ行政が担うべきであることや、多様でゆたかな生活を送る権利を守る社会基盤づくり・次世代育成・伝統保護に関する一定の経済効果や価値観に偏らない中立性が求められることなど、行政が文化振興を担う理由を明記すべき。 ○助成金をカットしている現状では、「社会を支える文化」は表現を変えるべきではないか。 ○今あるものを守られていない現状では、「攻める文化」は表現を変えるべきではないか。 ○「アーティストがめざす都市」は、「芸術家が住みたくなる都市の創生」など、より明確な表現に変えるべきではないか。	・次期計画において、基本的に理念を継承（表現は文化振興会議の議論を踏まえ検討）

【3】戦略（施策、取組み等）

意　　見	対応検討案
○「アーティストがめざす都市」について、カンヴァス推進事業での場の提供や、作家や作品を誘致できる環境整備の仕組みを充実させるとともに、プラットフォーム機能の強化の相乗効果がもたらされることが必要ではないか。 ○挑戦したいアーティストなどに届き、支援できるよう、「場」を活かすためのアピールなど工夫されたい。 ○クリエーターを育て文化が根付く街にする視点などから公的支援のあり方等の検討が必要。	・戦略①「大阪の街を使いこなす」、戦略②「府民の思いを都市づくりに活かす」において、記載を検討
○「府民の力が文化を育てる」は、文化に対する投資という枠組みをさらに充実させる必要がある。サクセスストーリーをつくるべき。	・戦略③「府民の力が文化を育てる」において、記載を検討
○都市魅力を強くアピールするものは、とんがったものでも構わないので、分野別に分析して議論を進めることが必要。 ○新たに文化を生み出す力をつけるには、都心部に大学生が集まるような仕掛けも重視すべき。 ○文化から経済効果を生み出すには、観光産業とのコラボレーションなどで成功例を提示できるよう、目利きの選択と集中によるサポートが必要。 ○新しい文化観光コンテンツ、文化芸術産業の創出を目的とした「ノンバーバルパフォーマンス」（台詞を用いず、アクションや表情、ダンスなどを使って繰り広げるエンターテインメント）を促進すべき。 ○ストリートダンスだけでなく、民主導で発展しているコンテンツもあるはず。 ○大阪でしか見れないコンテンツづくりが必要。また、大阪を愛するプロデューサーやコンテンツを広く募集してはどうか。 ○東京国際フォーラムのような地域の拠点となる世界標準の場は、税金だけでなく民間からの援助で建設することも可能。	・戦略④「地域文化をもとに大阪の魅力向上」、戦略⑤「大阪固有の文化資源を活用」、戦略⑥「エンターテイメントによる都市の活性化」において、記載を検討
○府民が、それぞれの地域で芸術を鑑賞できることはもちろん、より積極的に、自ら参加したり、サポートにも関わることができるよう、アートと府民をつなぐ「つなぎ手」（コーディネートできる人材）を育成することが重要。 ○教育行政との関係を議論する必要がある。	・戦略⑦「あらゆる施策に文化力を活用」において、記載を検討
○コンクールやコンテストなど催しを増やせば、より若い世代が参画できる機会が拡大し、次世代育成にもつながる。	・戦略⑧「未来を担う次世代の育成」において、記載を検討
○府のプランでは行政支援にあたって競争性が重視されているが、むしろ競争性のない芸術文化に対して、文化の主役とされる府民・市民のリテラシー向上（目利き）のために、鑑賞者の教育（府民が理解に親しみ、理解を深められるような府民意識の醸成）を戦略の一つに盛り込まれたい。 ○機内誌なども活用し、鑑賞者教育の促進（府民が文化に親しみ、理解を深められるような府民意識の醸成）につなげる視点からも情報戦略を設けるべき。 ○市の博物館などは、文化創出の拠点として盛り込めないか。 ○大学は文化創造の拠点となるため、より広い視点から取組みを盛り込むべきではないか。 ○府民に様々な文化情報を提供できるよう、フリーペーパーやネットによる「文化情報サイト」を検討してはどうか。	・戦略の新規項目として、例えば「文化振興への府民意識の醸成」を掲げてはどうか。

【4】推進・評価

意　　見	対応検討案
○現行計画の一定の総括を行うことが必要。	・現行計画については、指標の数値目標を経年で測定 ・各事業については、担当課による評価に加え、委員視察等による評価を実施
○「アンケートでは状況の変化により成果の計測が難しい」は、「評価基準（アウトカム指標）の見直し」などに、表現を変更すべき。 ○Ｗｅｂによるアンケート調査は、状況に偏りがあれば、成果に結びつきにくい。文化のプロセスが評価に反映されるような仕組みが大切ではないか。 ○総予算に占める文化予算比率の他都市比較や、目標比率の設定を行うべきではないか。また、他都市の人々が大阪の文化をどう見ているのか調査も必要。 ○評価指標において、動員数や経済効果を設定できないか。	・次期計画においては、実態や経験等に関する具体的なものもアウトカム指標として設定することを検討
○アーツカウンシルについては、評価スタッフに力量が求められる。 ○計画で方針を示し、アーツカウンシルで方法論を検討すべき。 ○アーツカウンシルにおいて、企業の寄附など文化財源を獲得する仕組みが必要ではないか。 ○アーツカウンシルは公益財団等が望ましいのではないか。メンバーにマスメディアを入れてはどうか。	・戦略⑨「推進・評価体制」において、記載を検討 （アーツカウンシルについては制度設計を検討中）